議会だより

小豆島町

No.36

平成27年5月1日 発行

入学おめでとう
みんなが君たち12人の成長を見守っています
星城小学校　入学式

● 審 議 議 案
平成27年度予算について …… 2～4
● 一 般 質 問
10名の議員が質問 …… 5～9
● 小学生議会開催 ……10・11
● 住民の声・町の力 ……12

27年度当初予算 92億600万円 を計上

3月定例会は、３月５日から３月２４日まで２０日間の会期で開かれました。

初日に、町長の２７年度施政方針の表明があり、「地方創生」を踏み出すため６つの分野「健康づくり」「子育ち・人づくり」「産業づくり」「文化・アート総合戦略」「交通・通信の充実」「防災対策」に予算編成し、実践していくことを表明しました。

一般質問には、１０人の議員が登壇し、病院・産業・防災・教育・福祉・鳥獣対策など、多方面にわたって論戦を展開しました。

また、条例改正や補正予算などを審議した結果、原案のとおり可決しました。

２７年度一般会計、特別会計など合わせて１０会計については、総務建設常任委員会、教育民生常任委員会にそれぞれ付託し、集中審査を行い、すべての予算を原案のとおり可決しました。

６つの分野の主な事業

1 健康づくり

健康づくり

オリーブ・ヘルスケアシステム　302万5千円
地区巡回健康相談事業（保健師、栄養士）　－円

福祉の推進

多世代交流・多機能施設整備事業（坂手：遊児老館）　5,040万円
外出支援サービス　211万円
商工会と連携した買い物支援サービス　630万円
バリアフリー化に向けた整備事業　300万円
内海病院の跡地利用（改修設計委託料）　4,147万2千円

医療の充実

小豆島中央病院の建設　10億7,625万7千円

2 子育ち・人づくり

子育ち応援の充実

延長保育事業　204万3千円
内海放課後児童クラブ整備事業　2,355万6千円
認定こども園建設実施設計事業　1,425万6千円

幼保小中高と一貫した教育

全小学校にタブレット端末を導入　2,000万円
教育指導室の設置　260万4千円
内海総合運動公園野球場内野改修工事　350万円

3 産業づくり

小豆島ブランドの強化と商店の活性化　1億734万1千円
棚田保全活性化・新たに里村共生室を設置（鳥獣・野犬対策）　5,685万8千円
オリーブトップワンプロジェクト　430万8千円

4 文化・アート総合戦略

戦略的広報プロジェクト

メディア等を活用した魅力発信事業　433万3千円

文化プロジェクト

石の文化の世界遺産化　1,400万円
文化財保存事業　366万2千円
四国学院大学との演劇文化振興　200万円

アートプロジェクト

2016瀬戸内国際芸術祭　2,683万8千円
水族館構想の推進　7,292万5千円
（当初7,000万円、補正292万5千円）

5 航路振興・交通

航路インフラ整備事業（福田港駐車場・坂手港整備事業）　1,900万円
オリーブバス経営改革事業　420万円

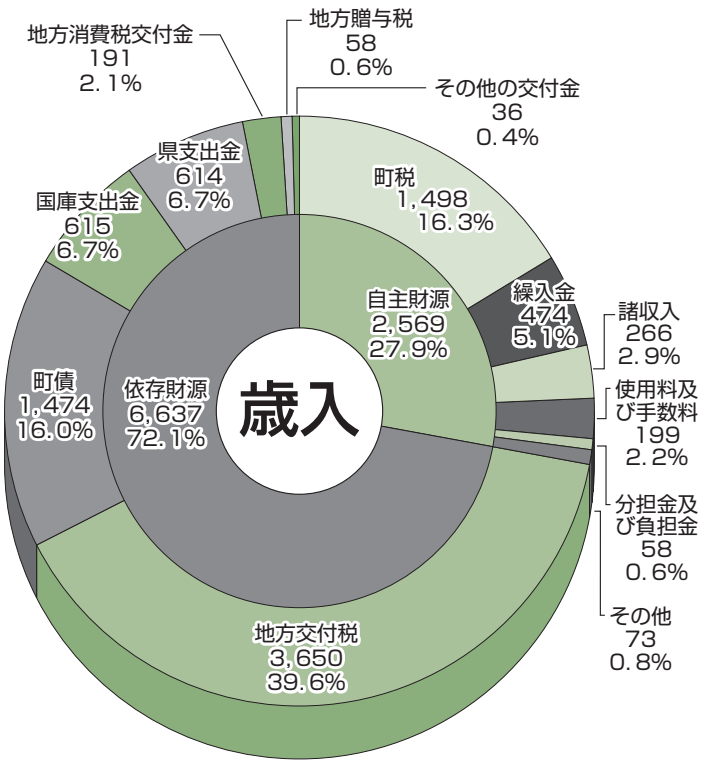
6 防災対策

災害に強いまちづくり

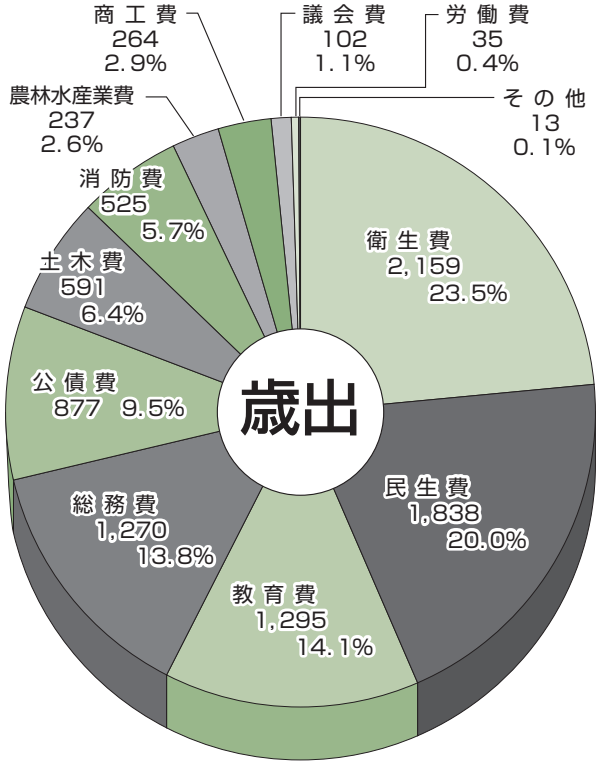
海抜表示の設置　60万円
防災拠点施設太陽光発電導入事業　8,521万2千円
馬木地区避難広場整備事業　2,800万円

一つひとつの歩みを重ね、小豆島と日本の創生を目指して

●歳入内訳



●目的別歳出内訳



（単位は百万円、構成比は%、百万円未満は四捨五入）
※端数処理の関係上、数値が合わない場合がある

平成27年度予算・意見をつけて可決

18件の条例・予算議案を総務建設、教育民生の各常任委員会に付託して延べ4日間にわたって、次のような審議をし、意見をつけ、賛成多数で原案通り可決しました。

企画財政課

Q 現在、地域おこし協力隊員は何名か。

A 4名。絵師の岡村美紀、学術専門員の川宿田好見、建築家の向井達也、写真家・英語等の教師歴があるパトリック・ツァイ。

【意見】

地域おこし協力隊員の活動状況を町広報などで住民によく分かる形で伝え、分野を拡大する方向で産業や観光振興など、町のニーズに合った協力隊員の活用に努められたい。

健康づくり福祉課

Q 国保財政で島外医療機関への支出割合は。

A 医療費の6割。軽度の手術等も島外医療機関で受診している。新病院には、地域の人たちが受診し島の医療を守っていただきたい。

【意見】

・国民健康保険税の税率改定については、住民へ十分な説明と周知を徹底されたい。

・町事業へ協力している各種団体については、その活動内容や補助金額を精査し、適切に補助をされたい。

内海病院

Q 内病として、島外医療機関への受診される方への対策は。

A 土庄中央病院小児科の閉鎖に伴い、島内で唯一となる産科・小児科への受診案内を行い、透析患者の受入れを継続し、医師不足等の悪循環の中、対応している。

【意見】

新病院（小豆島中央病院）への移行に向けて、島内受診の啓発に努めるなど、気運を高めるとともに、職員の異動や医療機器の移行が適切かつ円滑に進められるよう努力されたい。

環境衛生課

Q 粗大ごみ1品目につき、シールの貼りつけだが、料金一律にならないのか。

A 応能負担と公平性のため、1,280円を上限に4階層に分けている。

【意見】

粗大ごみの収集方法や料金については、住民や委託業者に十分な説明と周知を行い円滑に実施できるよう努められたい。

議案審議

補正予算

一般会計（第7号、第8号）

会期中に2つの補正予算が提案され、補正後の予算総額は110億573万3千円となりました。

（第7号補正）

2億2,400万円は、国の経済対策交付金に係る、空き家を活用した移住交流促進事業、プレミアム商品券による地元商店活性化事業、新病院開院に向けた医師確保等の事業に追加配分されたことによる補正です。

（第8号補正）

△2億1,348万6千円は、地方創生に伴う事業などを4月以降も切れ目なく実施するため繰り越して執行するための予算手続きのほか、その殆どが事業費精算による減額が主なものです。

総務費関係

移住交流促進事業　2,002万4千円

空き家を活用したモデル事業への委託料等です。

瀬戸内国際芸術祭実行委員会負担金　700万円

衛生費

地域医療再生事業　4,670万円

地域医療を守るための研修会開催と医師の確保対策です。

商工費

プレミアム商品券による地元商店活性化事業　6,520万円

土木費関係

植松都市下水路再整備工事　1,800万円

国費が追加配分されたためです。

条例制定

小豆島町企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律第10条第1項の規定に基づく準則を定める条例

工場立地法の特例として、緑地面積率及び環境施設面積率を条例で定めることができるものです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例

教育行政の権限と責任を明確にするため、町長が任免を行う教育長が町の教育行政の責任者として教育事務を行うなどの改正です。

条例の一部改正

国民健康保険税条例

県下で最低水準の税率の結果、国保事業の財政運営は、毎年、赤字を計上しており、補てんしてきた基金も26年度末で枯渇する状況のため、27年度は町民周知、28年度から税率の改正をします。

手数料条例等

粗大ごみの収集については、年1回、無料で収集していたが、27年度から、各戸からの申込みに応じて有料で収集する手数料の改正をします。

介護保険条例

第6期の介護保険料の設定にあたり、計画期間に必要とされる保険料から、基金の取り崩しにより保険料の上昇を抑制するとともに、被保険者の負担能力に応じた保険料の設定をするものです。

町議会委員会条例

地方自治法の改正により、条例第19条中の「教育委員会の**委員長**」を「教育委員会の**教育長**」に改めるものです。

※その他の一部改正条例
- 行政組織条例
- 防災会議条例
- 災害対策本部条例
- 職員の給与に関する条例
- 小豆島町ひとり親家庭等医療費支給に関する条例
- 子ども医療費助成に関する条例
- 重度心身障害者等医療費支給に関する条例
- 子ども・子育て支援法等の施行に伴う関係条例の整備に関する条例

その他の審議事項

- 小豆医療組合規約の全部変更
- 香川県広域水道事業体設立準備協議会の設置
- 小豆島町辺地総合整備計画の策定及び変更
- 小豆島町過疎地域自立促進計画の変更
- 植松都市下水路2号雨水幹線新設工事（その2）に係る工事請負契約の変更

人権擁護委員の選任

新任

渡辺克栄　氏（苗羽）

渡辺克栄　氏

退任

石井葉子　氏（馬木）

再任

坂元いさ子　氏（吉野）

議員発議

庁舎問題特別委員会の設置

庁舎については、改選前の前期にて特別委員会を設置し、審議を続けてきたところですが、新病院建設による「内海病院跡地利用」を含め、この問題について継続して調査、検討するものです。

委員長　大川新也
副委員長　谷　康男
委　員　浜口　勇
〃　秋長正幸
〃　安井信之
〃　藤本傳夫
〃　松下　智
〃　坂口直人

跡地利用が今後検討される内海病院

浜口　勇 議員

島の医師確保について

町「医師の奨学金については、土庄町とも相談し検討していきたい」

質問　現在、島内の二つの町立病院は医師不足のため四苦八苦している。これでは将来の島の医療が不安である。

　医師になって島の医療に携わる人材を育てねばならない。そのためには、子供のころから医療の大切さ、重要さを教えて、小学生・中学生の頃から見つけ出して医療職に就くように誘導して指導すること、そして将来、島へ帰る医学生には貸付制度ではなく、授業料を本人に代わって助成し、更に家賃などの生活費も助成して、島で将来活躍する医師の養成を目指すべきだと思うが。

答弁　島の発展には地域医療の確保が前提となる。新しくできる小豆島中央病院は医師の確保が最も大切である。子供の頃から医師を目指す人材を見つけ応援し、貸与ではなくて給付の奨学金や色々な支援策は一つの案であるので更に勉強していく。

　島出身の島外で活躍する医師は30名以上おり、島へ帰ってほしいと思うが、最も必要な条件は医師としてやりがいのある病院であることや医療技術の習熟が可能な病院であること。そして島民が自分たちの病院であることを自覚し、応援し利用することである。

　新病院へは香川大学が全面的に協力してくれることになっている。

　新病院長の予定者の佐藤先生は医師確保のため頑張ってくれている。

建設が進む小豆島中央病院
（将来の島の医療を担う）

安井　信之 議員

地場産業を応援する取組について

町「産業支援策の一つに、水道の負担軽減を議論していきたい」

質問　島の主幹産業の衰退は、人口の減少を加速させる要因である。

　県水道事業統合が検討されていく中で、支援策を見出すことができるのではないか。

答弁　小豆島の活性化のために、働く場の確保がとても重要である。小豆島は醤油、佃煮、そうめん、オリーブなどの地場産業が発展してきたが、食生活の多様化・円安・従業員の確保とかいろいろな要因で、それぞれ厳しい環境下で頑張っている。離島振興法に基づく支援策も一部導入しているが、それだけで十分とは言えない。

　これまでは、水が不足しているという中での水道料金の設定であった。事業の広域化の議論があって、留保財源をどう活用するかという問題もあるので、一度水道料金のあり方、支援策として活用できないかについて検討をしたい。

　企業支援策ということであれば、緊急対策と経済支援ということで理解すべきなので、できるだけ速やかに議会とも相談して結論を得たい。中・長期的に検討することと、今、大変厳しい状況にあるので、緊急の支援策として、水道料金の軽減が内部留保財源などを活用してできるかどうか速やかに検討したい。

町内の水道水源を担う内海ダム

森　崇 議員

猪被害の対策について

町「里村共生室を設置し、鳥獣害対策を地域と共に進める」

質問　鳥獣被害は農業問題を超え社会問題と捉えている。

木庄地区では4回の講演会を開き、作業も2回行った。平成21年、8匹の捕獲が昨年は何匹だったのか。道からの猪も多い。国道、県道、町道の山裾に柵が必要だと思う。捕獲を増し、オリーブ猪として売り出したらどうか。

答弁　猪対策は社会問題として捉え里村共生室を設け費用も増やす。町道は条件がそろえば許可している。

国道等は道路法もあり標識の呼びかけしか出来ない。猪の捕獲、昨年は400匹で急増している。オリーブ猪にするには課題も多く今すぐは難しい。

イノシシ柵の設置　講習会（木庄）

災害に強い町づくり

町「高潮対策の進捗率は順調に推移している」

質問　県は南海トラフの被害を考え計画を見直す。

高潮対策の進捗率と蒲生に高校が出来るが住民や高校生の安全をどう考えているのか。

答弁　県の説明は今からです。町責任の進捗率は100％、新高校の校舎位置は海抜6m、運動場は4mの高さである。

入部、蒲生の高潮対策も順次整備する。

広報のあり方について

町「できるだけ的確に情報提供に努める」

質問　広報のあり方の改善に取り組むとある。町民を思うなら自治会放送の改善や住民票に基づいていることの見直しが必要と思うが。

答弁　町長自らが直接対話を行っていく。住民票を移さず殆ど小豆島町に居る人は、地区総代に申し出てほしい。

柴田　初子 議員

ふるさと納税制度の活用について

町「寄付金控除の趣旨を踏まえ、良識の範囲内で特産品を選定したい」

質問　この制度は地方格差や過疎などによる税収の減少に悩む自治体に対しての格差是正を推進する為に創設された。これまでの納税寄付件数と金額はいくらか。返礼には特産品のほかに宿泊施設の優待、船の優待券や割引券を加えることの可能性は。

答弁　26年度のふるさと納税は123件323万1千円。件数においては飛躍的に伸びた。返礼について、基本的に寄付額の3割還元を考えている。金額的なランクの中でフェリー回数券など使用可能なら前向きに検討する。宿泊券等も証明があれば組み込むことが可能であると考えている。

プレミアム商品券取り扱いについて

町「幅広く地元商店で利用できるよう商工会と十分協議する」

質問　プレミアム商品券発行は家計の支援と個人消費の喚起を促すものと期待されている。

取り扱いは商工会、商品券使用は加盟店限定とのことだが、発行の趣旨からすると未加入の商店でも使えるよう再検討は。千円券だけでなく五百円券の発行は。

答弁　指摘のとおり、より幅広い地元商店で使えることが望ましい。今後、商工会とも十分相談し、住民の皆さんにとって使いやすい商品券となるよう検討したい。五百円券については取り扱いに手違いが出る可能性があるので千円券を12枚にした1セット販売方法を取りたい。

ふるさとに有効な活用を

坂口　直人 議員

小学校からの英語教育について

町「英語教育改革実施計画に沿って推進する」

質問　①学校における英語教育の現状と今後の見通しは。
②小学生から英語力を身につけるための方策は。
③義務教育終了時、どのくらい力をつけているのか。

答弁　①小学校高学年で年間約35時間、中学校では各学年140時間実施。英語教育改革実施計画に沿って推進する。
②外国語活動支援員等人的教育環境を整備し、英語に触れる機会を増やし、2人体制の授業を展開している。
③義務教育終了時点は難しい。だが、英語が身につく環境を整える計画が進んでいる。子供から高齢者までが対象となる英語教室の開催を予定している。

地域おこし協力隊員（パトリック・ツァイ）による英会話教室

行政と町民がつながるために

町「地域戦略室を設置し、地域懇談会やSNS等の情報発信ツールの見直しを進める」

質問　コミュニケーションツールの拡充は、暮らしやすさや町政への参加意欲につながり、災害時には大きな強みになる。今後運用していく考えは。

答弁　相互にやりとりが可能な通信手段として、SNS、ソーシャルネットワークサービス等がある。リアルタイムで情報を発信し、世界中に小豆島の魅力が発信できる。さらに災害時には大きな情報発信力が期待される。今後ホームページ更新も含め、コミュニケーションツールの小豆島町らしい魅力ある運用を考えていく。

大川　新也 議員

今、水族館は必要か

町「建設決定ではない」

質問　「水族館は小豆島また瀬戸内圏の多くの事に貢献できる」とあり、用地取得や町道拡幅に予算計上されている。建設決定ではなく時期尚早ではないか。今後、議会で議論し住民の声を聞くべきでは。

答弁　決定ではなく候補地であるが、水族館一連の予算措置を含め島全体の活性化の観点からも必要であり、実現のため全力で頑張る。具体的には今後多くの人の意見を頂き、議論していく。

年度当初予算の意味は

町「施政方針を具体化する予算である」

質問　26年度当初予算95億、幾度と補正が計上され最終で110億と15億円増えた。年度中に、国の補助金等があり、必要性は感じるが一般財源からも8億円投入。これでは当初予算の意味がなく、特に6月議会への補正計上には疑問に思うが。

答弁　当初予算とは施政方針を具体化する予算である。しかし、国の予算次第で次年度当初に決定もあるのが現状。その都度、説明し議会のチェックを受けている。

新庁舎問題は病院跡地に決定か

町「あくまで案である」

質問　「内海病院跡地を庁舎の一部として活用する」とあるが、議会は現在候補地の承認のみである。庁舎問題も議論が必要では。

答弁　決定した訳ではなく、あくまで病院跡地を有効活用することを前提に執行部案であり、今後議会をはじめ住民の皆様と議論し結論を得たい。

その他の質問
（紙面の都合でタイトルのみ）
- 青壮年層の健康・人づくりは
- Uターン者の実態把握は
- 防災へのハード面対応は
- 避難場所表示の設置は

藤本　傳夫 議員

小豆島町の財政の見通しは

町「国の動向を見て中期財政計画の作成中である」

質問　小豆島の中期財政計画は、どうなっているのか。26・27年度のプライマリーバランスは赤字だ。町は合併時よりも「町債は増えたが、基金も増えた」と説明している。

　しかし、合併による算定がえはこれからなくなる。どの事業も大切な施策だと思うが、はっきり優先順位をつけるべきではないか。

　企画振興部の中で、財政と事業振興は分けて、別の部となり、収入役のような役を置いては。

答弁　国の制度としての地方財政支援がある この数年で、大きな事業を実現する必要があると考えている。新病院の建設や、子育て・子育ちの環境整備、人口減少を克服するための諸施策を行う積極的予算を計上している。

　中・長期の財政見通しは、国の算定がえ終了後の新たな財政支援の動向もあり、そう遠くない時期に議会に提出する。

　26年度の合併特例加算額は4億3,800万円であり、これは、5年で無くなる。対応策としていろんな財源を有利な活用で財政の健全性を保っていく。

　企画事業と財政については、同じ部署に存在することで、即時的・効果的な対応を可能にしている。当然ながら査定が甘くなることはない。

健全化判断比率	平成25年度	H24	H23	早期健全化基準
実質赤字比率	△13.77%	△11.19%	△15.63%	14.66%
連結実績赤字比率	△57.77%	△54.31%	△57.10%	19.66%
実質公債費比率	5.80%	6.50%	7.60%	25.00%
将来負担比率	△76.90%	△71.70%	△57.80%	350.00%

※△マイナス表示は資金不足額が基準以下。

中松　和彦 議員

「ふるさとの景観」を保全し、次世代へと伝えていくには

町「地域戦略室」を中心に本格的な取り組みを始める

質問　私たちの暮らす小豆島では、年を経るごとに昔を思いださせるような懐かしくも心に優しい風景が少なくなってきている。

　今なお優しい街並み・景観・自然を残す地域にはそれなりの対応が必要であり、地域に暮らす人々が「ふるさとの景観」保全を重要視し、行政もまた長期的な計画のもと、保全策を強力に推進してゆかねばならない。

　また、そのような環境（景観）保全にこそ、今後ますます多様化する観光に対応できる要素が秘められていると考える。

　小豆島町として「ふるさとの景観」保全に対する姿勢、更には今後の具体策はどのようなものがあるのか。

答弁　従来より棚田保全活性化事業や醤の郷条例制定による景観保全事業及び構想を進めてきた。

　27年度、まず全国的に有名な愛媛県内子町へ先進地視察を行い、また地域戦略室を設置し、今後のビジョン策定に向け本格的な取り組みを開始したい。

伝統的な町並みが息づく苗羽地区

松下　智 議員

プレミアム商品券発行の継続を

町「町内消費の拡大を図るためにも継続の方向で検討する」

質問　プレミアム商品券の発行の目的は
①町内での消費喚起と消費拡大
②地域商業の活性化
③町内経済の振興などが考えられる。
この目的達成には、単年度事業で終わることでは、住民の直接的な消費喚起効果や、新規の消費誘発効果などが、果実として現れることはない。重要なことは、次年度以降も継続することが、目的達成の必要不可欠な要素であると考えるが。

答弁　町内消費の拡大をはかるためには、地元商店で買い物をすることが重要であり、町内に限定した商品券事業の継続的な実施も一つの方策と考えている。
継続的に実施する場合には、町民の税金の活用ということになるので、商工会をはじめとする関係者・町議会等の意見に沿って対応したい。

県教委の高校跡地活用検討会での経緯状況は

町「早い時期に、跡地部会を開催するよう要望する」

質問　高校跡地問題は、昨年の9月議会で質問したが、その後の経緯・進展状況は。

答弁　跡地利用方策検討会の内容によっては、本庁内にプロジェクトチーム設置の検討と、必要に応じて議会等に報告すると答弁したが、その後進展がない状況である。高校統合まであと2年、早い時期に跡地部会を開催するよう要望したい。
この課題は、閉校となる29年3月までに決定することが望ましいが、期限にとらわれずに慎重に検討を行い、本町の将来に有益な活用を図りたい。

広大な敷地をもつ小豆島高校

鍋谷真由美 議員

高い国保税の引き下げを

町「28年度に2％の引き上げをする」

質問　国保税が高いという町民の声に応え、国保税の引き上げはやめ、国への国庫負担引き上げ要請と一般会計からの繰入で負担軽減をすべきでは。

答弁　国保会計は赤字であり、28年度に2％の引き上げをする現在の案が現時点ではベストだと考える。

戦争体験集発行など平和の施策を

町「前向きに検討したい」

質問　戦後70年の今年、戦争体験集の発行など過去の悲惨な戦争を風化させる事なく、平和を考える場を提供する施策に取り組むべきだ。また、子どもたちに戦争の真実を教えることが大事ではないか。

答弁　平和について学ぶことは非常に重要。ふるさと教育を推進する中で、積極的に取り組みたい。戦争体験集は、いろいろなご提案をいただきたい。

三豊市で発行された
戦争体験集

障害者控除認定証明書の周知徹底を

町「要介護4、5の人には通知をする」

質問　介護保険要介護認定者への障害者控除証明書の発行は、要介護度の重い65歳以上の高齢者が、障害者手帳がなくても、町が認定することで、障害者控除を利用できるもの。しかし、ほとんどの町民に知らされていない。対象者に介護保険通知と一緒に申請のお知らせをしてはどうか。

答弁　要介護4、5の方は、障害者控除に該当する扱いにし、確定申告時に、個別に申請の案内をする。それ以外の方には、広報等で知らせる。

その他の質問
（紙面の都合でタイトルのみ）
・交通対策
・鳥獣対策

小豆島町 小学生議会

「町長・教育長に質問！」

2月10日、苗羽小学校の児童15人による、小学生議会が開かれ、子ども視点からみた、素直な町政に対する質問を行いました。

ごみの先出しをなくすために、朝の放送で呼びかけてみては。

答　今のところ、朝の放送は考えていません。地域ごとに決められた、ごみ出しのルールを守ることとごみに関する情報をもっとお知らせしていきます。

岡田　里（おかだ　さと）議員

友達が増えるので、統合に賛成です。町内の小学校の統合はあるのでしょうか。

答　小学校は、地域を愛する心の育成と学びの基礎を作る場と考えています。ぎりぎりのところまで存続させる方針であり、当分の間は、統合する考えはありません。

海野　碧音（うみの　あおね）議員

高等学校が蒲生にできる頃、今よりもバスの便数が増え、接続もよくなっているのでしょうか。

答　現在、小豆島全体の公共交通の仕組みを見直しています。運賃、運行ルートや時間帯などを改善しますので、皆さんバスを利用してください。

河野　慎也（こうの　しんや）議員

外国人観光客から、美しい町と思われるように、子どもたちがデザインしたゴミ箱を置いてみては。

答　前回の瀬戸芸の会場16カ所に小学生の標語を掲示したごみ箱を設置しました。2016年もアイデアを生かして、マナーが高まる工夫を凝らしたいと思います。

林　叶大（はやし　かなた）議員

住民から集めた税金を、何に重点的に使っていますか。無駄遣いをしない秘訣は。

答　新しい病院建設や文化・アートを使って地域が元気になる取り組みに使っています。

秘訣は、地域や議員の意見を聞きながら、お金を使う予定「予算」をたてることです。

小林　琉生（こばやし　りゅうせい）議員

カーブミラーや押しボタン信号を設置する等、交通安全に関する取組を教えて下さい。

答　春、夏、秋、冬に交通安全キャンペーンを実施しています。カーブミラー等は自治会から要望を取りまとめ設置し、信号機は警察にお願いしています。

千壽　ちよ（せんじゅ）議員

予測される大地震にどのような津波対策を立てていますか。

答　地震が発生した場合に被害を正しく伝える、津波ハザードマップや地面の高さを表示した海抜表示の看板を設置する取組をしています。

笹谷　真紘（ささたに　まひろ）議員

本の魅力を味わえるよう、むとす館で読み聞かせの会を行う予定はありますか。

答　毎月、第１・第２日曜日に読み聞かせの会を行っています。本の魅力を味わってもらえるよう、周知方法を工夫していきたいと思います。

佐伯　菜摘（さえき　なつみ）議員

島には、障がいのある人を一時的に預かってくれる施設はないのでしょうか。

震　葵 衣 議員

答　ホームヘルプというサービスを小豆島町５施設、土庄町３施設で利用できます。

介護について、今後の町としての取組を教えて下さい。

澤井　優花 議員

答　元気な高齢者を増やし、自宅や地域で暮らせることが大切です。介護の必要な方には、小規模多機能型施設を６区域で整備中、内海病院跡地利用として特別養護老人ホームの整備計画をしています。

船の運賃を今よりも安くするには、どうすればいいですか。

立 石　壮 議員

答　小豆島の魅力を高めることと地場産業を育てることです。そのために、国や県などにはたらきかけて、海の交通の支援に取り組んでいきたいと思います。

イノシシ、サル、シカなどの野生動物に対する今後の取組を教えて下さい。

髙橋　涼花 議員

答　数を減らすため、ワナで捕まえる「捕獲」と、270年前のしし垣と同じように人の住む所へ出ないよう「金網」を張っていきます。

今後、どのような産業の育成に力を入れ、小豆島の自慢を発信していきますか。

鳥居　万椰 議員

答　2016年の瀬戸芸に向けて、伝統的な醤油や佃煮、素麺、オリーブと芸術などの新しい分野を小豆島の魅力（自慢）として発信したいと思います。

ヘリポートを新病院の屋上に造る予定はありますか。

田村　海帆 議員

答　新病院の屋上には設けていません。ヘリコプターで搬送する場合の離発着場として「ふるさと村グラウンド、芝生広場」を利用予定です。

苗羽小学校６年生議員の皆さん

2016年、３回目の瀬戸芸の計画はどうなっていますか。

福島　祥仁 議員

答　前回エリアに加え、草壁港と池田港が挙げられています。島の人たちが参加でき、小豆島らしい芸術祭を行いたいと思います。

住民の声 Vol.36

「この町をよくするために」

塩田　洋介
（馬木自治会総代）

2014・醤の郷　景観整備事業の完成
写真（馬木地区）

私たちの島の「少子高齢化が止まらない」、「人口減少が進んでいる」。

どうすればその傾向を少しでも和らげる事ができるのだろうか。

江戸時代から日本にオリーブが持ち込まれていたが、栽培目的が定まっていなかったから、定着しなかったといわれているが、人々も同じかも知れない。小豆島に移住してきてもこれという目的がはっきりしていなければ、なかなか定着はできないだろうと考えられる。ということは逆に小豆島がこんなことをしたいので、それを担う人々を求めればひょっとして来てくれるのでは？と思います。勿論、それにはきちっとした受け入れ態勢を作らなければなりません。

隠岐（おき）の島の海士（あま）町、国会討論でも取り上げられるほど移住者で活性化された町です。保育園に待機児童が出るかも知れないなどとも言われています。小豆島との違いは何なんでしょうか。みんなで考えてみたい事柄ですね。

まちの力

小豆島町ジュニアリーダークラブ

小豆島町ジュニアリーダークラブには、現在11名の中高生が所属しています。私たちは、町子連や郡子連のイベントの手伝いや、茨木市との交流キャンプのサポートをしています。

4年前から図書館でジュニアリーダー主催のクリスマス会を始めました。80人以上の子ども達が参加してくれ、とても盛り上がっています。

交流キャンプでは、茨木市の子ども達も小豆島の子ども達も安全に楽しく過ごせるよう、小豆島町役場の皆さんと協力して、毎年キャンプを成功させています。イベントのサポートだけではなく、講義を受けたり、研修や大会にも積極的に参加しています。

ジュニアリーダーは子どもからお年寄りまで、たくさんの人と関わることができ、自分を成長させることができる場所です。

現在、一緒に活動してくれる仲間を募集中です。小豆島町内の中学生以上の子なら誰でも入れます。ぜひ、私たちと一緒に素敵な思い出を作り、一歩成長してみませんか。

【ジュニアリーダー】
小豆島高校　阿竹萌香
【お問合せ先】
小豆島町社会教育課
☎0879-82-7015

編集後記

日日是好日（ひび・これ・こうにち）

この言葉への思い!!

この言葉を耳にしたとき、人には、それぞれの受け止め方をするでしょう。悠悠自適（ゆうゆうじてき）という趣もあり、そう感じる方も…いるでしょうか。ちょうど1年前、議員の立場になってから心がけている言葉です。

日日是好日…町民の皆さんが、毎日が輝いている、すばらしい好き日であっていただきたい！

好日は、願っていても、待っていてもかなえられるものではない。このために、私たち議員は、日日是考日が大切であり、日日是行日であり続けたい。と思う日日である。合掌！

松下　智　記

なお、議会への傍聴（6月予定）にもお越しください。

本紙に対するお問い合わせは
■発行　小豆島町議会　■編集　小豆島町議会広報編集特別委員会
〒761-4388　香川県小豆郡小豆島町池田2100-4　TEL(0879)75-1100　FAX(0879)75-0108
E-mail　olive-gikai@town.shodoshima.lg.jp